

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

戻る

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-A9 コミュニ ケーション 基礎講座	20140586016201	●コミュニ ケーション基 礎講座Ⅰ(コ ミュニケー ションの人類 学)	和	E	波佐間 逸博	1年,2年,3年,4年	後期	火 1	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-A9 コミュニ ケーション 基礎講座	20140586016501	●コミュニ ケーション基 礎講座Ⅰ(コ ミュニケー ションの生物 学)	和	E	岡田 二 郎	1年,2年,3年,4年	後期	火 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-A9 コミュニ ケーション 基礎講座	20140586017001	●コミュニ ケーション基 礎講座Ⅰ(コ ミュニケー ション基礎実 践A)	和	E	當山 明 華	1年,2年,3年,4年	後期	月 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-A9 コミュニ ケーション 基礎講座	20140586017002	●コミュニ ケーション基 礎講座Ⅰ(コ ミュニケー ション基礎実 践B)	和	E	當山 明 華	1年,2年,3年,4年	後期	月 2	～

戻る



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A9 コミュニケーション基礎講座**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586016201	科目番号	05860162
授業科目名	●コミュニケーション基礎講座Ⅰ(コミュニケーションの人類学)		
編集担当教員	波佐間 逸博		
授業担当教員名(科目責任者)	波佐間 逸博		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	波佐間 逸博		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	hazama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	多文化社会学部2号館		
担当教員TEL	095-819-2922		
担当教員オフィスアワー	月～金 9時～17時（事前にメールなどで確認してください）		
授業の概要及び位置づけ	本科目は、自分たちとは異なる文化に息づいているコミュニケーションに強い関心を抱いており、また、生の深層を直接観察によってつきとめようとするフィールドワークに魅力を感じている学生を対象とし、言語的・非言語的コミュニケーションの多様性と普遍性、そしてそれらが生成される基盤について、受講生の一人ひとりがオリジナルなやり方で根源から思考することを目指します。 授業では、アフリカで自然に強く依存して暮らす人びと（狩猟採集民、牧畜民、農耕民）のコミュニケーションに関する具体的な事実（あたかも「踊り」を踊っているかのように交わされる砂漠の狩猟民たちの肉感的発話、精霊とともに歓喜へと至り抜く森の濃密なポリフォニー、生業や臨床における人間と家畜の呼応するアクションやまなざしの交叉によってなしとげられる共同注意（ジョイント・アテンション）、文字の文化との対比においてしばしば表明される「声の文化（オーラリティ）は『複雑でカテゴリカルな思考方法には興味をもたない』」という常識を裏切るサヴァンナの哲学など）を理解することによって、他者との共生を可能にするコミュニケーションの実践力を培うことを目的とします。		
授業到達目標	・言語的・非言語的コミュニケーションの多様性と普遍性の概要を説明できる（⑦、⑨）。 ・他者とともにある経験をめぐる探求、＜社会的相互行為論＞をはじめとする学問領域の概要を説明できる（⑦、⑧、⑪）。 ・日常的な会話や身振りの社会的・歴史的な多様性について、事例をもとに具体的に説明することができる（⑨）。 ・ワークやグループプレゼンテーションを通して、授業で身につけた知識や自己の考えをまとめ、口頭および文章で発表することができる（①、②、⑤、⑫、⑬）。		
授業方法（学習指導法）	講義、事例学習（参考文献やDVDを使用する）、ワークやプレゼンテーション（それぞれ個人またはグループ）などの方法を用いる。また、予復習の課題に取り組むことにより受講生は授業の内容の理解を深めることができる。		
	第1回において、他の学問分野にはない、人類学に独特のアプローチや、コミュニケーションと関連したその基本的な概念、アフリカの概要を解説するとともに、今後学習する内容や学習方法、成績評価の仕方などを説明します。第2回から第13回までコミュニケーションの身体モデル、非言語コミュニケーション、オーラリティといったテーマをもうけたうえで、各テーマにつき、講義、ワーク（文献を読む、映像鑑賞、小レポート作成やディスカッション）、プレゼンテーション、質疑応答などをおこないます。		
	回	内容	

授業内容	1	I はじめに
	2	II コミュニケーションの身体モデル①：アフリカの伝統音楽
	3	II コミュニケーションの身体モデル②：「会話の格率」は普遍的か？
	4	II コミュニケーションの身体モデル③： 関連性からの離脱
	5	II コミュニケーションの身体モデル④：まとめと質疑応答
	6	III 非言語コミュニケーション①：感情を表現する発声は文化を越えて通じるか？
	7	III 非言語コミュニケーション②：声と人称の拡散空間
	8	III 非言語コミュニケーション③：コール&レスポンスから反構造へ
	9	III 非言語コミュニケーション④：まとめと質疑応答
	10	IV オーラリティ①：文字の文化と声の文化
	11	IV オーラリティ②：婚資交渉におけるメタ・メッセージ
	12	IV オーラリティ③：牧童が歌う存在の詩
	13	IV オーラリティ④：まとめと質疑応答
	14	V 講義全体の総括
	15	V 全体討論
	16	定期試験
キーワード	異種間コミュニケーション、ターンテイキング、ダブルバインド、身体の共鳴、ファティーク・コミュニケーション	
教科書・教材・参考書	特定の教科書は使用しませんが、授業内で参考資料や文献などを紹介していきます。	
成績評価の方法・基準等	授業内の課題への取組状況（レポート、プレゼンテーション）30％、授業外の課題への取組状況（予復習課題）30％、定期試験40％	
受講要件（履修条件）	本科目は主体的学習促進支援システム（LACS）上に講義資料や課題を提示します。週に平均1時間程度を授業外の学習（予復習）に充ててください。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	講義資料や予復習の課題、連絡事項などをLACS上に掲載するので、各自確認してください。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A9 コミュニケーション基礎講座**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586016501	科目番号	05860165
授業科目名	●コミュニケーション基礎講座Ⅰ(コミュニケーションの生物学)		
編集担当教員	岡田 二郎		
授業担当教員名(科目責任者)	岡田 二郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡田 二郎,篠原 一之,西谷 正太,土居 裕和		
科目分類	全学モジュールⅠ 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	jokada@nagasaki-u.ac.jp（岡田）		
担当教員研究室	環境科学部本館227室（岡田）、医学部基礎研究棟3F（篠原）		
担当教員TEL	095-819-2762（岡田）、095-819-7033（篠原）		
担当教員オフィスアワー	月～金 12:10～12:40（岡田）、月～金 16:30～17:30（篠原）		
授業の概要及び位置づけ	ほとんどの動物は、何らかの手段を用いて個体同士での情報のやり取りをおこなっているが、これが現代の人間社会における複雑なコミュニケーションの礎となっている。ヒトを含めた動物では、種特異的な動作、音声、化学物質などのシグナルが送り手から発せられ、それらが受け手の感覚器で受信される。このシグナルは中枢に運ばれ、識別され、次に受け手が起こすべき応答のプログラムが生成され、最終的に返信シグナルが発現する。この一連のプロセスは、必然的に生物学的な意義が存在していて、いずれも脳神経系の機能を基礎としている。 本講義では、生物学から見たコミュニケーションについて、その進化と多様性、および解剖学的・生理学的基盤に注目して学ぶ。 本科目は「コミュニケーション基礎講座」のモジュールⅠ科目としてコミュニケーションの基礎を学ぶものである。		
授業到達目標	（岡田） ・コミュニケーションの生物学的意義を理解し、その進化と多様性について説明できる（基礎的知識、環境の意義、多様性の意義、学問を尊敬する態度） ・様々な動物におけるコミュニケーションの生理学側面について説明できる（基礎的知識、多様性の意義、学問を尊敬する態度） ・自主的に学ぶ態度を身につける（自主的探究、自己成長志向） ・メンバー間で積極的かつ協調的に課題解決に取り組み、最善の結論を得るための態度およびスキルを獲得する（日本語コミュニケーション力、相互啓発志向） （篠原） ・ヒトのコミュニケーションに欠かせない認知・情動に関する脳基盤の基礎を理解し、説明できる（基盤的知識、自主的探究、学問を尊敬する態度）。 ・コミュニケーションに関連するホルモンや遺伝子等についても学習の範囲を広げ、更なる基礎知識を習得する（基盤的知識、自主的探究、学問を尊敬する態度）。 ・コミュニケーションの評価法としての行動・脳機能計測手法や、ホルモン、遺伝子解析等にも触れ、コミュニケーションを定量化するための知識を習得する（基盤的知識、社会貢献意欲、批判的思考）。		
授業方法（学習指導法）	P C プロジェクタ、クリッカー等を利用した講義の他、講義内容に関連する課題をおこなう（グループワーク含む）。		
	回	内容	

授業内容	1	オリエンテーション：生物のコミュニケーションとは（岡田）
	2	動物コミュニケーションの進化 1（岡田）
	3	動物コミュニケーションの進化 1（岡田）
	4	動物コミュニケーションの生理学的基礎（岡田）
	5	昆虫の化学コミュニケーション（岡田）
	6	コオロギの音声コミュニケーション（岡田）
	7	小鳥の音声コミュニケーション（岡田）
	8	前半の総括と中間評価課題（岡田）
	9	オリエンテーション ヒトのコミュニケーションとは
	10	ヒトのコミュニケーションに関わる脳基盤（認知・情動を司る脳機能）
	11	ヒトのコミュニケーションに関わるホルモン、遺伝子
	12	ヒトのコミュニケーションを司る脳の性差
	13	男女間におけるコミュニケーションの脳科学（恋愛）
	14	親子間におけるコミュニケーションの脳科学（母性・父性、愛着）
	15	脳科学・行動実験体験
	16	後半（ヒトのコミュニケーション）の総括と期末評価課題
キーワード	岡田：行動、進化、多様性、脳神経系 篠原：進化・社会化・神経現象学・ソーシャル・レインズ	
教科書・教材・参考書	岡田：LACSに掲載する資料、配布資料等を用いる。 篠原：スライドを用いた講義を行う。	
成績評価の方法・基準等	岡田：予習課題（30%）、講義中のグループ課題（30%）と第8回目の中間評価課題（40%）による。 篠原：予習課題25%、レポート25%、グループ学習25%、プレゼンテーション25%	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	岡田：高校生物における刺激の受容と反応、および動物の行動と生態について復習しておくが良い。 篠原：脳に関する一般書等からの予備知識があると良い。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A9 コミュニケーション基礎講座**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586017001	科目番号	05860170
授業科目名	●コミュニケーション基礎講座Ⅰ(コミュニケーション基礎実践A)		
編集担当教員	當山 明華		
授業担当教員名(科目責任者)	當山 明華		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	當山 明華,岡田 佳子,若菜 啓孝		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	s-toyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	大学教育イノベーションセンター		
担当教員TEL	2115(當山)、 2091 (岡田)		
担当教員オフィスアワー	メールにて予約		
授業の概要及び位置づけ	本科目は「コミュニケーション基礎講座」のモジュールⅠ科目として、大学や社会でのコミュニケーションに必要とされる基礎能力の育成をめざします。 皆さんは大学や社会で求められるコミュニケーション能力とはどのようなものだと思いますか？大学や実社会では問題に対して一つの正答があるとは必ずしも限りませんし、回答が複数あることも数多くあります。そのため、大学以降では問題の要点を理解・判断したうえで、自分が考えた意見を人に伝えたり、自分と異なる意見を持った相手とも関係を構築するなどといったコミュニケーションのための様々な能力が求められます。 この科目では、「読み」「書き」およびプレゼンテーションやディスカッション等の基礎的な技能を高め、さらにソーシャルメディアの可能性や情報化社会が及ぼす影響について理解することによって、大学や社会で求められるコミュニケーション能力を全体的に高めていくことをめざします。		
授業到達目標	（[]内は、対応する全学モジュール目標の番号です） (1)与えられた情報の要点を理解し、要約することができる【本質理解】[⑤] (2)調べたいテーマについて適切な方法で資料検索・調査ができる【情報収集】[①、②、④] (3)人の発表や意見を聞いたうえで、自分の意見をまとめ、述べられる【役割理解】。[②、③、④、⑤] (4)建設的かつ創造的に議論ができる【意見の調整・原因追究】。[②、③、④、⑤、⑫、⑬] (5)正しい引用、注記方法を用いて論理的なレポートが書ける【計画立案力】。[①、②、③、④、⑤、⑪] (6)ものの見方、考え方には多様性があることを理解する【課題発見力】。[②、⑨、⑬]		
授業方法（学習指導法）	授業では、上記の目標を達成するために必要な理論・スキルの説明と演習を行います。 さらに、授業内容の定着を図るため授業外の時間に、授業内容および授業内で行われるグループ・ディスカッションのまとめレポートを書いてもらいます。 また、最終授業の後に全体の総括レポートも求めます。 期末試験は実施しません。 1回の授業は以下の流れで進めます。 (1)コミュニケーションに必要な理論・スキルを学ぶ (2)学んだ理論・スキルについてのグループ演習および発表を行う (3)授業外の時間に、授業の内容などについてのレポートを作成し提出 ※提出されたレポートは添削して返却します		
	第1回の授業で扱う内容や学習方法、評価方法などを説明し、さらに自分自身の現在の評価を行いま		

授業内容	す。 その後第2回と第3回、および第7回～第14回までは、ライティングやプレゼンテーションなどコミュニケーションに必要な基礎力について学びます。 第4回～第6回までは、現代のコミュニケーションに欠かせないツールとなったインターネットについて学びます。 各回とも、テーマに沿ったグループ・ディスカッションをもとに学習を深め、適宜復習とレポートの提出を求めます。 第15回はここまでの学習をまとめて総括レポートにする準備を行い、まとめと振り返りを行います。																																		
	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>本科目の趣旨説明、自己の現在評価を行う</td></tr><tr><td>2</td><td>自己紹介文を書く～ライティングの基本を学ぶ～</td></tr><tr><td>3</td><td>ディスカッション・プレゼンテーションの基本</td></tr><tr><td>4</td><td>情報セキュリティについて</td></tr><tr><td>5</td><td>ソーシャルネットワークサービスについて(1)</td></tr><tr><td>6</td><td>ソーシャルネットワークサービスについて(2)</td></tr><tr><td>7</td><td>情報の精査・要約の仕方について学ぶ</td></tr><tr><td>8</td><td>レポートの書き方、引用の仕方を学ぶ</td></tr><tr><td>9</td><td>目標設定や自己診断の大切さについて学ぶ</td></tr><tr><td>10</td><td>コミュニケーションスキルについて学ぶ(1)</td></tr><tr><td>11</td><td>コミュニケーションスキルについて学ぶ(2)</td></tr><tr><td>12</td><td>思考力について学ぶ(1)</td></tr><tr><td>13</td><td>思考力について学ぶ(2)</td></tr><tr><td>14</td><td>思考力について学ぶ(3)</td></tr><tr><td>15</td><td>学習のまとめと自己評価</td></tr><tr><td>16</td><td>総括レポート</td></tr></table>	回	内容	1	本科目の趣旨説明、自己の現在評価を行う	2	自己紹介文を書く～ライティングの基本を学ぶ～	3	ディスカッション・プレゼンテーションの基本	4	情報セキュリティについて	5	ソーシャルネットワークサービスについて(1)	6	ソーシャルネットワークサービスについて(2)	7	情報の精査・要約の仕方について学ぶ	8	レポートの書き方、引用の仕方を学ぶ	9	目標設定や自己診断の大切さについて学ぶ	10	コミュニケーションスキルについて学ぶ(1)	11	コミュニケーションスキルについて学ぶ(2)	12	思考力について学ぶ(1)	13	思考力について学ぶ(2)	14	思考力について学ぶ(3)	15	学習のまとめと自己評価	16	総括レポート
	回	内容																																	
	1	本科目の趣旨説明、自己の現在評価を行う																																	
	2	自己紹介文を書く～ライティングの基本を学ぶ～																																	
	3	ディスカッション・プレゼンテーションの基本																																	
	4	情報セキュリティについて																																	
	5	ソーシャルネットワークサービスについて(1)																																	
	6	ソーシャルネットワークサービスについて(2)																																	
	7	情報の精査・要約の仕方について学ぶ																																	
	8	レポートの書き方、引用の仕方を学ぶ																																	
	9	目標設定や自己診断の大切さについて学ぶ																																	
	10	コミュニケーションスキルについて学ぶ(1)																																	
	11	コミュニケーションスキルについて学ぶ(2)																																	
	12	思考力について学ぶ(1)																																	
	13	思考力について学ぶ(2)																																	
	14	思考力について学ぶ(3)																																	
15	学習のまとめと自己評価																																		
16	総括レポート																																		
キーワード	読解力、批判的思考力、情報リテラシー、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッション																																		
教科書・教材・参考書	教科書は指定しません。参考資料等は授業のなかで随時配付します。																																		
成績評価の方法・基準等	①自主的な学習・研究活動を行ったか（総合評価、10点）②課題発見・課題追究のために十分な思考を行ったか（10点）③課題発見・課題追究のために十分な資料収集を行ったか（10点）④適切な研究方法を用いたか（10点）⑤十分に協力し合ったか（10点）⑥討論に積極的に参加したか（10点）⑦成果を適切にプレゼンテーションしたか（20点）⑧成果を適切にレポートにまとめたか（20点）																																		
受講要件（履修条件）	全回出席が可能なこと。集中して授業や課題に取り組むこと。自分の言動に責任を持てること。																																		
備考（URL）																																			
学生へのメッセージ	この科目ではコミュニケーション能力を実践的に育成していくため、授業外での学習や課題、調査の比重が大きいです。受講を希望する人はその点に留意して参加して下さい。																																		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A9 コミュニケーション基礎講座**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586017002	科目番号	05860170
授業科目名	●コミュニケーション基礎講座Ⅰ(コミュニケーション基礎実践B)		
編集担当教員	當山 明華		
授業担当教員名(科目責任者)	當山 明華		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	當山 明華,岡田 佳子,若菜 啓孝		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	s-toyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	大学教育イノベーションセンター		
担当教員TEL	2115		
担当教員オフィスアワー	メールにて予約		
授業の概要及び位置づけ	本科目は「コミュニケーション基礎講座」のモジュールⅠ科目として、大学や社会でのコミュニケーションに必要とされる基礎能力の育成をめざします。 皆さんは大学や社会で求められるコミュニケーション能力とはどのようなものだと思いますか？大学や実社会では問題に対して一つの正答があるとは必ずしも限りませんし、回答が複数あることも数多くあります。そのため、大学以降では問題の要点を理解・判断したうえで、自分が考えた意見を人に伝えたり、自分と異なる意見を持った相手とも関係を構築するなどといったコミュニケーションのための様々な能力が求められます。 この科目では、「読み」「書き」およびプレゼンテーションやディスカッション等の基礎的な技能を高め、さらにソーシャルメディアの可能性や情報化社会が及ぼす影響について理解することによって、大学や社会で求められるコミュニケーション能力を全体的に高めていくことをめざします。		
授業到達目標	（[]内は、対応する全学モジュール目標の番号です） (1)与えられた情報の要点を理解し、要約することができる【本質理解】[⑤] (2)調べたいテーマについて適切な方法で資料検索・調査ができる【情報収集】[①、②、④] (3)人の発表や意見を聞いたうえで、自分の意見をまとめ、述べられる【役割理解】。[②、③、④、⑤] (4)建設的かつ創造的に議論ができる【意見の調整・原因追究】。[②、③、④、⑤、⑫、⑬] (5)正しい引用、注記方法を用いて論理的なレポートが書ける【計画立案力】。[①、②、③、④、⑤、⑪] (6)ものの見方、考え方には多様性があることを理解する【課題発見力】。[②、⑨、⑬]		
授業方法（学習指導法）	授業では、上記の目標を達成するために必要な理論・スキルの説明と演習を行います。 さらに、授業内容の定着を図るため授業外の時間に、授業内容および授業内で行われるグループ・ディスカッションのまとめレポートを書いてもらいます。 また、最終授業の後に全体の総括レポートも求めます。 期末試験は実施しません。 1回の授業は以下の流れで進めます。 (1)コミュニケーションに必要な理論・スキルを学ぶ (2)学んだ理論・スキルについてのグループ演習および発表を行う (3)授業外の時間に、授業の内容などについてのレポートを作成し提出 ※提出されたレポートは添削して返却します		
	第1回の授業で扱う内容や学習方法、評価方法などを説明し、さらに自分自身の現在の評価を行いま		

授業内容	す。 その後第2回と第3回、および第7回～第14回までは、ライティングやプレゼンテーションなどコミュニケーションに必要な基礎力について学びます。 第4回～第6回までは、現代のコミュニケーションに欠かせないツールとなったインターネットについて学びます。 各回とも、テーマに沿ったグループ・ディスカッションをもとに学習を深め、適宜復習とレポートの提出を求めます。 第15回はこれまでの学習をまとめて総括レポートにする準備を行い、まとめと振り返りを行います。	
	回	内容
	1	本科目の趣旨説明、自己の現在評価を行う
	2	自己紹介文を書く～ライティングの基本を学ぶ～
	3	ディスカッション・プレゼンテーションの基本
	4	情報セキュリティについて
	5	ソーシャルネットワークサービスについて(1)
	6	ソーシャルネットワークサービスについて(2)
	7	情報の精査・要約の仕方を学ぶ
	8	レポートの書き方、引用の仕方を学ぶ
	9	目標設定や自己診断の大切さについて学ぶ
	10	コミュニケーションスキルについて学ぶ(1)
	11	コミュニケーションスキルについて学ぶ(2)
	12	思考力について学ぶ (1)
	13	思考力について学ぶ (2)
	14	思考力について学ぶ (3)
	15	学習のまとめと自己評価
	16	総括レポート作成
キーワード	読解力、批判的思考力、情報リテラシー、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッション	
教科書・教材・参考書	教科書は指定しません。参考資料等は授業のなかで随時配付します。	
成績評価の方法・基準等	授業内のグループワーク：20% 授業外課題：60% 総括レポート：20% (評価基準については授業の初回に説明します。)	
受講要件 (履修条件)	全回出席が可能なこと。集中して授業や課題に取り組むこと。自分の言動に責任を持てること。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	この科目ではコミュニケーション能力を実践的に育成していくため、授業外での学習や課題、調査の比重が大きいです。受講を希望する人はその点に留意して参加して下さい。	

